みらいだより

令和６年３月１日

社会福祉法人 みどり会
みどりの森 みらいこども園

園長　　中川　宏美

桃の花のつぼみも膨らんできて、春の訪れを感じます。身も心も明るくなって喜びも希望もふくらんでくる今日このころです。

今年度もあと１か月になりました。この１年間の子どもたちの変化は素晴らしいものがあり、心身共に大きく成長しました。今月は、進学、進級という新しい生活に向かう自信を子どもたちが持つように見守りたいと思います。

３　月		
日	曜	行　事　予　定
1	金	ひなまつり会
9	土	・お弁当の日 ・新入園児説明会
11	月	身体測定（どんぐり・ひかり）
12	火	身体測定（たけのこ・そら）
13	火	身体測定（りす・うさぎ）
15	金	山登り（ひかり）
19	火	お別れ遠足（そら・ひかり）
21	木	お別れ会
23	土	・卒園式 ・お弁当の日
25	月	お花見（うさぎ）
26	火	お花見（りす・ひかり）
27	水	お花見（りす・そら）
※変更の場合あり		

お願い

◇3/23(土)卒園式

3/30(土)新年度準備のため、できるだけ家庭保育のご協力をよろしくお願いします。

♫「ひかり組のリズムに感動！」

リズム会当日、ひかり組にそら組のＹくんからお手紙が届きました。**「ひかりぐみさんのリズムかっこいいよ。なわとびがんばってね。ひかりぐみさんリズムがんばってね。ぼくもおうえんしているよ」**ひかり組は、Ｙくんからのお手紙に目がキラン！いつも以上にやる気スイッチが入りました。

ひかり組のリズムを毎日みていて、「ひかり組みたいになりたい。はやくひかり組になりたい」と憧れの気持ちがあります。こどもたちは異年齢の関わりの中で学んでいるんだということを実感しました。

○「子どもの最善の利益」を考える　～２月の園内研修から～

子どもの人権や人格を尊重し、子どもの最善の利益を実現する保育について、具体的な実践事例を紹介しながら話し合いました。

・「一人ひとりの子どもがありのままを受け止められること」
・「子どもの思い・つぶやきを大切にした環境をつくること」
・「子どもに、たくさんありがとうを伝えること」
・「安心できる場所で安全に過ごせること」
・「子どもの興味関心に合わせて活動時間や環境を考えていくこと」

※「子どもにとってどうなの？」と職員間で意識して話し合うこと、子どもを一人の人として尊重して接することを職員間で再確認しました。

○リスク研修「誤飲」

(親指と人差し指)をくっつけた大きさを基準にして、誤飲の危険性のある玩具や食材の大きさを考える習慣をつけるよう再確認しました。

喉に詰まりやすい食材は、給食の献立から除外しています。ご家庭でも参考にしてください。

ミニトマト・ウズラの卵・チーズ・ぶどう・サクランボ・リンゴ

ドキュメンテーションから

どんぐり組（0 歳児）：「どーん」「かいっ」
「どーん」と手を離すと、斜面を勢いよく滑っていく車、横に滑っていく車、ゆっくり滑っていく船をじっとみていました。「かいっ」と繰り返し試します。自分も船と一緒に斜面を滑っていました。予想したり工夫したり、思考力の始まりがみられるようになっています。

たけのこ組（1 歳児）：「水の流れ」
地面を掘り水を入れてみます。水の通り道ができ、水の流れをじっと見ていました。次どこに水が流れていくのか、考えながら砂を掘り進めていました。水の流れを試行錯誤しながら友だちと一緒に遊んでいます。深い・浅い・高い・低いに気づいたり比較したりすることで、興味関心が芽生え、感覚が養われていきます。

りす組（2 歳児）：「かんせ～い！」
梅の花びらが落ちているのをみつけ「あった」とじっとみていました。ふるいに花びらを入れ「ここ」「かいちゃんの」と伝えてくれます。
花びらや葉っぱをたくさん集めて「かんせ～い」花が咲いた、散った、葉が色づいたなど、園庭の四季を感じそのときどきの季節の遊びを自分なりに考えて楽しんでいます。

うさぎ組（3歳児）：「このみちのさきは？」
「こっちなにがあるん」「なんか洞窟みたいで怖いね」「行ってみようや」「どっち行く？」「こっち行こ」「あっちはきっと怪獣がいるから危ないよ」「こっちお花咲いとるけん安全♬」「帰るぞー」と来た道を戻っていくと…「なんか道ある！」と通ったことのない道を発見！！「行ってみよう」と自分たちで決めて、ドキドキワクワクしながら進み、様々なことを感じ取っていました

そら組（4 歳児）：「青空レストラン」
「いらっしゃいませ～」「エビフライください！」「油で揚げます～」「はい、どうぞ～」「こっちもください！」「お誕生日の人はいますか？」「いません！」昨日から仕込んでいたエビフライが看板メニューの青空レストランが開店！ごっこ遊びを楽しんでいます。店員の人員不足に気付くと「手伝ってよ」とお客さんに協力要請し、遊びを展開させています。

ひかり組（5 歳児）：「ただいま作戦会議中」
「鬼役の人と、鬼から赤ちゃんを守る人とどっちが先に入る？」「先に豆、配った方が守れるんじゃない？」「鬼だぞうって優しく言って入ったらいいのかな・・。」鬼役、鬼をやっつける役、福の神役で実際どんな感じになるのかをシミュレーションしていました。誰から部屋に入ればいい？どうやって豆を小さい子に渡せばいい？投げた豆はどうする？など、様々な疑問に意見やアイデアを出し合っていました。